

2021 年 8 月 23 日
早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター

創造的復興研究会
研究課題 2「2050 年に原子力災害からの地域復興の象徴として 1F の世界遺産(文化遺産)登録を行う」
WG 2 第 1 回会合 議事録

日時: 2021 年 8 月 3 日 (火) 17:00-18:35

方式: Zoom

出席者 (敬称略):

松岡俊二: 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科・教授
遠藤秀文: 株式会社ふたば・社長、福島県富岡町
小磯匡大: 福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校教諭
高原耕平: ひょうご震災記念 21 世紀研究機構 人と防災未来センター・主任研究員
除本理史: 大阪市立大学大学院経営学研究科・教授
永井祐二: 早稲田大学環境総合研究センター・研究院准教授
(欠席)
阪本真由美: 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科・教授

オブザーバー

宮野 廣: 日本原子力学会・福島第一原子力発電所廃炉検討委員会・委員長
小林正明: 中間貯蔵・環境安全事業株式会社・社長
磯辺吉彦: 広野わいわいプロジェクト・事務局長 (途中退出)

事務局:

山田美香: 早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター・福島駐在研究員
朱 鉦: 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科・博士課程
中野健太郎: 早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科・博士課程
(欠席)
東 日向子: 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科・修士課程
松川希映: 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科・修士課程
倉重水優: 早稲田大学政治経済学部

議題 1 WG 2 のミッションと今後の進め方

- ・松岡委員より WG2 の趣旨を説明された。そして、シンポジウム「広島原爆ドームの世界遺産 (文化遺産) 登録と 1F 廃炉の将来像を考える」企画書 (第 1 次案) についての紹介があった。
- ・シンポジウムについては研究会で議論し、11 月か 12 月に具体化していきたい。世界遺産登録はやはり地域自治体の意向は重要であるため、リサーチセンターがサポートし、徐々に地域で雰囲気を作りたい。

議題 2 物語と未来: 高原耕平

- ・災害の伝承をどう考えるのかが研究の前提である。各地域は共通の困難と固有の困難によって、それぞれ固有の伝承モデルがあり、福島の人々が福島モデルを作っていくべきである。伝承モデルは、語り手・聞き手、場所 (中核的施設)、方法・アーカイブ、共通の軸など記憶と物語を支えるものから構成される。
- ・2050 年が通過点である。2050 年頃、直接体験世代と 2011 年生まれの第 2 世代の間に葛藤がある可能性がある。また、震災当時が赤ちゃんの第 2 世代は当事者であるが、下の世代に語れない問題もある。

世代間、世代内の葛藤を丁寧に見る必要がある。

- ・残った構造物でなく、廃炉プロセスおよび災害伝承を世界遺産の対象とする可能性を考えている。プロセスを世界遺産化することで、廃炉をめぐる小さな/大きな物語の蓄積と伝承がされていく。廃炉の「物語」をどう捉えるかも並行して議論したら良い。

- ・世界遺産化するために、地域で「1F はたからものである」という共通認識の形成が必要である。その認識の変容は簡単ではないが、どのように徐々に起こすかが課題となる。

今後のスケジュール、その他

- ・8月下旬か9月上旬 広島の関係者との11月シンポジウムに関する打合せ（オンライン）
- ・10月 第2回創造的復興研究会
- ・11月 シンポジウム「広島原爆ドームの世界遺産（文化遺産）登録と1F 廃炉の将来像を考える」
- ・12月 第2回創造的復興研究会

2022 年

- ・1月 第3回創造的復興研究会・「2050年の福島浜通り地域の将来像(中間取りまとめ)」作成
- ・1月下旬（1/23（日）or 1/30（日）） 第9回ふくしま学（楽）会（ハイブリッド開催）

以上